

～～第8349回～～

伊豆半島ジオトレ②（城ヶ崎）

～H30. 1. 13～

伊豆半島ジオパークトレッキング2回目は東伊豆の城ヶ崎海岸を歩く。城ヶ崎は大室山から流れ出た溶岩で出来ている。ぼら納屋の駐車場からピクニカルコースを歩き始める。黒船防備砲台跡を通過して、門脇つり橋を渡ると松林の上に白い灯台が見える。灯台の展望台からはギザギザ溶岩の海岸線や紺碧の海に浮かぶ伊豆七島、背後には大室山から天城山が青空に映える。伊豆海洋公園を抜け、日蓮聖人ゆかりの蓮着寺に入る。満潮時は海へ沈む俎岩へ置き去りにされた日蓮聖人が地元の漁師に救われたという逸話がある。マツやヤマモモの巨木が聳え、中でも樹齢千年を超える国内最大級の国指定天然記念物ヤマモモは三本の幹を大きく広げて大迫力だ。マキの巨木や石食いモチの木などもある。ここから自然研究路になる。マツクイムシがいないのか、大きく立派なクロマツの林が残っている。断崖絶壁の続く海岸にはユニークな名前の岩場が沢山あり、波の打ち付ける岩礁で釣りをする命知らずが何人もいた。大岩だらけの「かんのんの浜」でポットホールを探す。岩場を乗り越えると波打ち際に見付けた。水流によって動き回る岩石が岩床などに穴をあけた状態のことで、70 cm程もある真ん丸の岩が残っているのは珍しいそうだ。波をかぶると穴の中でゴトゴト動く。この浜で昼食にする。「いがいが根」は流れ出た溶岩がテーブル状に海へ突き出しており、ノラネコの溜まり場になっている。橋立の崖を下りると「大淀・小淀」という岩場にできた小さなプールほどの潮溜まりがあり、海越しに対島川の滝が見える。崖を戻って橋立つり橋を渡って小さな集落に出る。坂を下った浜が八幡野港だ。堤防の奥に「堂の穴」があり、大きな洞窟に石仏などが祀られている。港でバスに乗って八幡宮来宮神社へ向かう。道が狭いため途中でバスを降り、大急ぎで往復する。道沿いにある「高見のシイの木」が幹を振って聳え立ち圧倒される。来宮神社はもう少し先だ。境内は暗くて少し薄気味悪い。社殿の前に巨大なスギが天を突き刺すように直立している。社叢は国指定天然記念物だ。南方系シダのリュウビンタイの北限自生地にあたり、一株だけ目にすることができた。帰りに伊豆高原の湯に寄り泥パックと伊豆高原ビールを楽しむ。

参加者：12名（静岡北3、藤枝9）

天候：晴

地図：天城山・川奈

コースタイム：藤枝＝ぼら納屋 855-907…城ヶ崎ピクニカルコース…蓮着寺 1015-27…

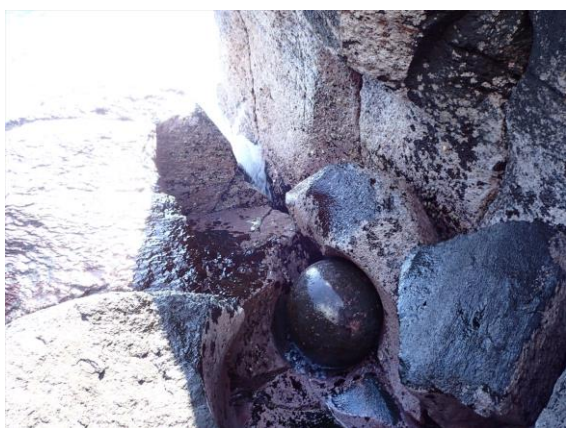
城ヶ崎自然研究路…八幡野港 1415＝八幡宮来宮神社 1430-45＝伊豆高原の湯＝藤枝

記録：藤枝支部 ゆ記

海岸に流れ出た溶岩テーブル「いがいが根」と天城山



「かんのんの浜」のポットホール



柱状節理の続く断崖

